

2025 年度 おきなわふるさと振興基金事業報告書

事業者名：池宮照子

提出日：令和 8 年 7 月 21 日

1、事業テーマ

明治生まれの琉球古典音楽家・池宮喜輝著作集『琉楽・三味線』発刊を通して、琉球の芸能をこよなく愛した三線演奏家のメッセージを令和の世に届ける。

池宮喜輝著作集について

池宮喜輝（1886～1967、申請者の祖父）は那覇市若狭町出身の琉球古典音楽家。1915年、沖縄で初のレコードを出した三人の一人である。戦後は疎開先の熊本から川崎へ移住し、1957年に帰沖するまで、かの地で琉球音楽の普及に務めた。1952年、琉球芸能は「沖縄の芸能」として川崎市無形文化財に、54年に神奈川県無形文化財に指定された。1954年には県内外、国内外の三味線を鑑定し、図版入りで『三味線宝鑑』を出版した（1987年に『琉球芸能教範』として復刊）。野村流音楽協会第5代会長。第5回沖縄タイムス賞（文化功労）受賞。

第2集については①概論（三味線の歴史）、②歌（十七八節等）、③工工四関連、④三味線の型等、⑤野村流音楽協会の歴史と演奏家、ハワイ・南米の琉球音楽事情、⑥著者に関する他者原稿等を収録する。全3集のうち第2集がもっともボリュームがあり、喜輝の三線への情熱が込められている。

喜輝の論考で戦前に新聞掲載されたものの中には、現在公的資料で確認されていないものもあり貴重である。自筆原稿の中には未発表のものもある。論考としてはすでに半世紀以上経っているが、復帰前の沖縄で、琉球芸能の未来を案じた喜輝の想いが込められている。

2、事業の概要

発行書籍『池宮喜輝著作集 2 琉楽・三味線』

●本書仕様

A5判上製本・358 ページ

部数：450 部

定価：3,400 円＋税

発行・ボーダーインク

2025 年 9 月 30 日発行

●本書内容(目次より)

第一章 琉球音楽、行く末長く

琉球音楽の将来について／琉球音楽史執筆に際して／琉球劇場音楽の起源と地方（地謡）
琉球古典音楽の悩みと将来 各派代表による座談会より抜粋／◆音楽の立場から 「宮古島縁起」パンフレットより

第二章 琉球の楽譜、工工四

琉球の楽譜工工四について／「琉球音楽の原理並に工工四の取扱法について」の記事を読み
潤水生に答ふ

第三章 琉球古典音楽の起源

琉球古典曲の古郷を訪ねて 比叡山にて／琉球古典音楽 その起源と作者 琉球大学講演要旨
仏教音楽と琉球音楽 死別のおもろについて／音楽と仏教 インタビュー「私の研究」より
琉球音楽と久高島 かぎやて風節について／琉球音楽「歌の科」新人芸能祭によせて
新人芸能祭 音楽部によせて

第四章 三味線、琴、太鼓

『三味線宝鑑』誕生まで／琉球の三味線 1 冊封と江戸上り 2 三味線の器名と年代
3 三味線各部 4 三味線鑑定法 5 名器、開鐘 / ◆絃試（ツンダミ）と音感 6 三味線調査
7 各地における三味線祭と展覧会 8 その他 / ◆珍器シナ三味線（池宮喜輝所蔵）
琉球箏曲（琴）の起源について／八重山に残る太鼓の記録と楽譜／鼓と太鼓の記録
◆伝統工芸品展示会の監査所感

第五章 野村流と野村流音楽協会

琉球音楽と湛水親方／野村流の今昔／歴代音楽家伝と野村の工工四序文／那覇放送局設置と琉球
音楽私見／東京における沖縄芸能／琉球音楽の沿革と野村流 / 会報発刊の趣意／会報第二号発
刊について／祝辞「創立五周年記念誌」在ペルー沖縄音楽協会／沖縄野村流音楽協会関西支部の
会報発刊を祝して／野村流音楽協会（大阪関西支部と川崎支部）／野村流顕彰碑建立関連／ハワ
イ移民と琉球音楽／異郷に咲く沖縄芸能 池宮喜輝さん北南米の旅から／大西洋廻り航程
◆世界漫遊琉歌

第六章 琉球音楽を愛した人々

師と弟子 桑江良慎翁（1831～1914）／金武の松金 金武良仁先生／伊差川世瑞先生の偉業をし
のぶ／琉球音楽開眼の師 伊江朝助先生のご逝去を悼む／東恩納寛惇先生の思い出／屋嘉宗勝さ
んを悼む／中村孟順先生 弔辞／名優・真境名由康氏 ハワイの錦風会記念大会によせて

解題 琉楽—ウタサンシンの息づかい

長浜眞勇（琉球古典音楽野村流音楽協会師範）

本書の出典・参考資料
あとがき

・本書「解より抜粋

このような琉楽・文学（琉歌）の過渡期の中で呼吸していた池宮は、実技と学術研究を深めて
いった。近代期における琉楽・文学の主な研究者は、野村流に池宮喜輝、平良盛吉、山内盛彬、
世禮國男、安富祖流に比嘉盛章（菊水）、富原守清らであった。これらの研究者は研究対象の視
座において独自性を醸し出していた。池宮は、琉楽は琉楽のみで存在するのではなく、琉球の悠
久の歴史にみる森羅万象の一つ一つが互いに作用し、琉球独自の文化を形成していると捉えてい
たように思う。民話、古謡、工芸、民俗行事などに暖かいまなざしを注ぎ、調査、記録、保存し
ているところに池宮の特異的な研究姿勢を強烈に感じるのである。

3、本書の反響

●書店販売

現在県内書店やネット書店で販売中。県外書店で注文取り寄せ注文も可能。

●県内図書館

沖縄県立図書館、那覇市立図書館を始め公立図書館9か所に蔵書（みーぐるぐるサーチ）
沖縄国際大学、東京芸術大学など大学図書館4か所に蔵書（ciNii 図書）

池宮喜輝著作集2 琉楽・三味線



3740円・ポータビリティ

「宝鑑」には約1万丁の三味線名器の調査を行った中から、300丁余りの三味線の持ち主やその由来、形状などが詳細に

開くと、「贈呈 琉球音楽家池宮喜輝」という自筆のサインがあ

った。初めて知る名前だった。

著作集2が出た時、まず私が

開いたのは、「宝鑑」関連のパー

ートだった。上京し、テレビデ

ィレクターの駆け出しだった私

は「沖縄」関連の企画を探して

いた。テレビ局の資料室で見つ

けたのが「宝鑑」だった。本を

開くと、「贈呈 琉球音楽家池

宮喜輝」という自筆のサインが

あった。初めて知る名前だった。

著作集2が出た時、まず私が

開いたのは、「宝鑑」関連のパー

ートだった。上京し、テレビデ

ィレクターの駆け出しだった私

は「沖縄」関連の企画を探して

いた。テレビ局の資料室で見つ

けたのが「宝鑑」だった。本を

開くと、「贈呈 琉球音楽家池

宮喜輝」という自筆のサインが

あった。初めて知る名前だった。

著作集2が出た時、まず私が

開いたのは、「宝鑑」関連のパー

ートだった。上京し、テレビデ

ィレクターの駆け出しだった私

は「沖縄」関連の企画を探して

いた。テレビ局の資料室で見つ

徹底した調査と研究

記されていた。その中で見つけたのが、「現所有者」がハワイと記されていた「江戸与那」だった。

名器がたどった数奇な流転の物語を沖縄の運命を重ねて番組を制作した。私にとつては、その後、数多く手がけた「沖縄」の出発点になる番組になった。

第4章の冒頭に「三味線宝鑑誕生まで」という、新聞に連載された文章が載っている。

「1千年来郷土琉球の誇りとして蓄積保有するすべての文化財がこの度の戦禍によりほとんど焼失した今日、その残り少ない残存文化財を（中略）保存上完璧を期すべきである」

昭和19年に疎開し、13年ぶりに帰郷した池宮の文化財保護にかける決意が読み取れる言葉である。

著作集2には、古典音楽の起源について天台声明との関連が説かれ、比叡山での調査の詳細もある。これらの研究は、のちに伊佐川世瑞・世礼国男共著「声楽譜附工工四」と並ぶ偉業（東恩納寛博）と称えられた。

徹底した調査と実証的な研究、そして古典音楽家としての感性に裏打ちされた貴重な一冊である。

（仲松昌次・フリーデレク

いけみや・きき 1886年、那覇市若狭生まれ。1904年に我謝秀益に師事し、三味線の道へ。45年に宮崎県で終戦を迎える。47年に神奈川県川崎市に転居し、東京沖縄芸能保存会を東恩納寛博らと結成。52年から63年まで野村流音楽協会第5代会長を務めた。67年に沖縄で死去。

4、本書の書評

『沖縄タイムス』2026年12月20日掲載

『琉球新報』2025年12月28日掲載

5、事業のその後

2026年6月22日『池宮喜輝著作集3 瑞泉庵の日々』を刊行し、本プロジェクトは完結した。今後は関係者によるイベント等の開催も視野に入れている。また、所蔵資料を整理しなおし、寄贈先なども検討していきたい。

（了）